
日時：2012年1月19日（木） 16：30～18：00

場所：総合人間学部棟 1102 室（1階西側）

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_vs.htm

講演タイトル：

自己とは何か：脳機能画像研究からの考察

講演者：

杉浦元亮（東北大学加齢医学研究所准教授）

講演要旨：

自己とは何か——おそらく共通の定義は存在しない。この概念のあいまいさが、自己の自然科学的探究の大きな壁の一つとなってきた。そんな中で例外的に明快な、鏡像自己認知に関する動物・発達心理学研究から、自己認知の神経基盤を探る認知神経科学的研究への流れが生まれた。進化発達した大きな脳だけに備わる特別な社会認知処理モジュールとしての自己、その局在を探る研究の多くは、右大脳半球の外側部の様々な領域が自分の顔や身体認知の際に特異的に（他者のそれと比較して）活動することを明らかにした。しかし、身体的な側面以外に目を向けると、自己特異的な脳活動はまったく異なる脳ネットワークに現れる。これまでの研究を関連する脳ネットワークに基づいて整理すると、自己について、運動・感覚と深い関係を持つ「身体」的側面、他者の目に映る自己としての「対人関係」的側面、自己概念や行動選択に重要な「社会価値」的側面という、少なくとも3つの側面を配慮しなければならない。さらに最近、それぞれの側面に関わる脳ネットワークの中でも、それを構成する各領域の自己特異的脳活動は、様々な文脈に依存して変化することが明らかになってきた。少なくとも脳においては多様な自己が存在する、このおそらく間違いのない結論を越えて、再び統一概念としての自己を定義する可能性とその意味について論じたい。

問い合わせ先：

人間・環境学研究科（認知科学分野） 月浦 崇

E-mail: tsukiura.takashi.6c@kyoto-u.ac.jp